

# 京都グレインシステム株式会社

## 2018 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2018 年11月1日～ 2019 年1月31日)



作成日： 2019年3月31日

# — 目 次 —

項 目	ページ
ご挨拶・環境経営方針	1
組織の概要	2
環境経営組織図	3
環境経営目標及びその実績	4
環境経営計画の取組結果とその評価	5
環境活動	6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	7
代表者による全体の評価と見直し・指示	8

## ご挨拶

京都グレインシステム株式会社は創業以来、経営理念「健康と感動を食生活へ」のもと、事業活動に取り組んできました。飲料事業から食品事業へ拡大し、“市場にないものが欲しい”というお客様の難しいニーズにも応えてきました。

### □環境経営方針

## 環境経営方針

当社は、環境にやさしい食品製造業を目指し、行動指針のひとつである「もったいない」の精神を育てよう（歩留まり・不良加工・工程のムダ・省力化の改善）を基に、環境保全の推進・維持に取り組めます。また、法令を守り環境の事を考えた商品の購入（グリーン購入）に努めます。

### <必ず取り組む行動>

- 省エネルギー化
- エネルギー使用量管理、見える化
- 井水・排水量及び水質管理、再利用化
- 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- 廃棄物の削減、リサイクル化
- 法令遵守とグリーン購入の推進

2018年11月1日制定

京都グレインシステム株式会社  
代表取締役 田宮 尚一

## □組織の概要

### 会社概要

当社の概要は次の通りである。

社 名 京都グレインシステム株式会社

資本金 2,000万円

従業員数 77名（2018年12月現在）

所在地

本 社 〒600-8233

京都市下京区油小路通木津屋橋下ル北不動堂町480番地

資生堂京都ビル

TEL：075-353-8833 FAX：075-353-8837

奈良工場 〒632-0111

奈良県奈良市小倉町1224

TEL：0743-84-0396 FAX：0743-84-0397

石川工場 〒920-0020

石川県河北郡津幡町字湖東311-2

TEL：076-289-7794 FAX：076-289-7796

### 事業内容

農産物の製造加工及び受託加工

- ・飲料原料事業（玄米茶、麦茶、穀物茶 他）
- ・食品原料事業（発芽玄米、きな粉、雑穀パフ 他）
- ・健康食品原料及び生薬原料の刻み加工事業（原料加工）
- ・海外輸出入事業（中国茶 他）

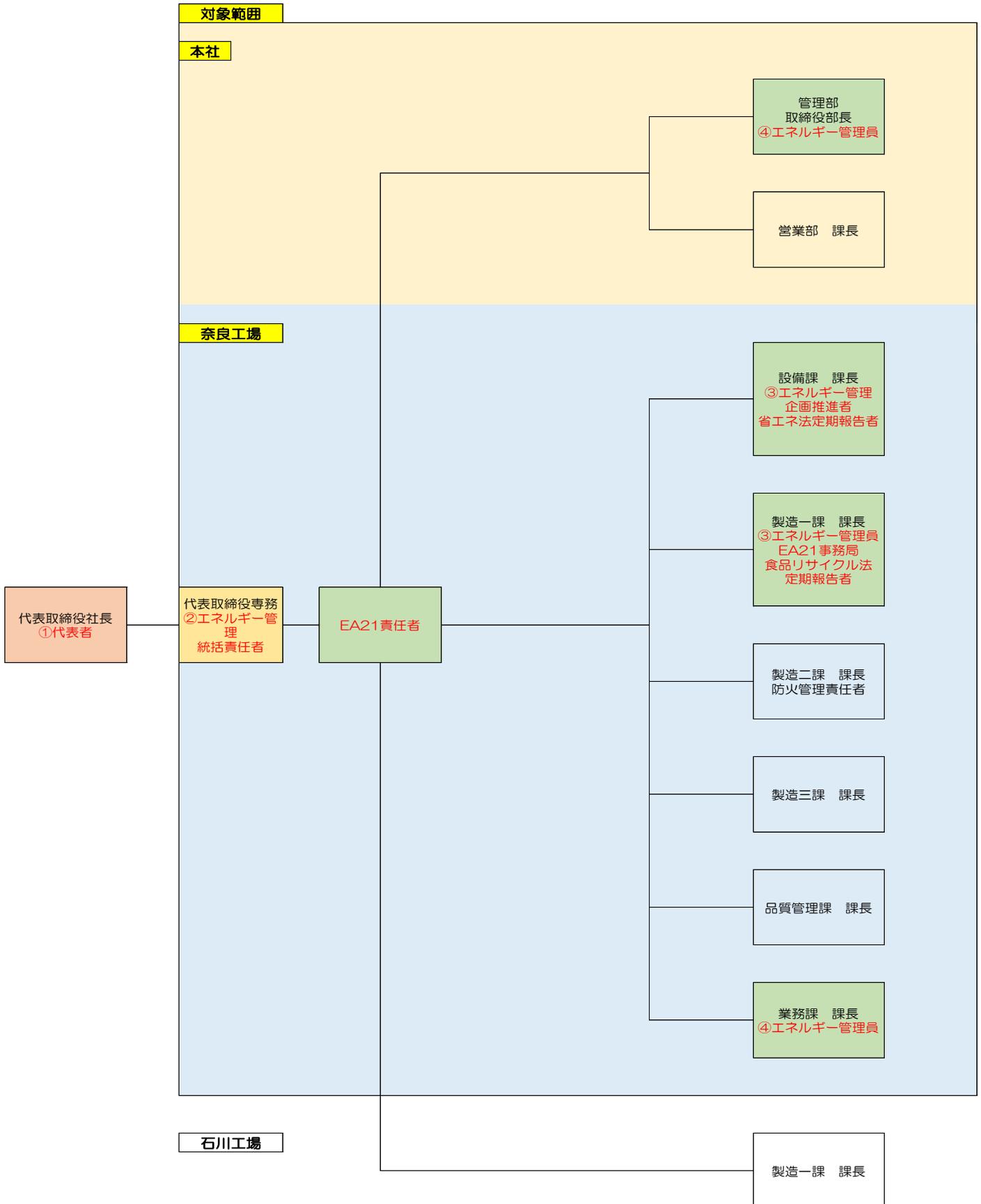
対象範囲 本社・奈良工場（石川工場は4年以内に対象範囲に加える。）

対象活動 全活動



	本社	奈良工場	石川工場
従業員	13人	59人	5人
面積 敷地 床	71㎡ (床)	73,000㎡ (敷地)	600㎡ (敷地)
売上 比率	—	90%	10%
対象範囲			

□環境経営組織図



□環境経営目標及びその実績

環境目標一覧表

策定日：2018年11月1日

環境目標	取組サイト	基準年度(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
		実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 (kwh/売上百万円)	対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	
		奈良工場	541	535	530	525	519	514
	電気二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		0	0	0	0	0	0
	燃料(LPG)使用量の削減 (kg/売上百万円)	対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	
		奈良工場	291	289	286	283	280	277
	燃料(LPG)二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		875	866	857	849	840	831
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		875	866	857	849	840	831
	京都本社 ガソリン使用量 (L)	対基準年度削減% (2018年11月～2019年1月)		—	1.0	2.0	3.0	4.0
		ガソリン	2,418	実使用量調査中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96
		軽油	1,492	実使用量調査中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96
京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		0.0172	実使用量調査中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96	
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物の削減 (kg/売上百万円)	対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	
		奈良工場	30.2	29.9	29.6	29.3	29.0	28.7
	食品廃棄物再生利用実施率の 向上維持	基準年度(2018年度)%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	
		奈良工場	95.3%	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持
水使用量の削減	地下水使用量の削減 (m <sup>3</sup> /売上百万円)	奈良工場	基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		使用量	6.4	6.4	6.2	6.1	5.8	5.5
グリーン購入の推進	環境負荷低減商品の使用	全社	使用商品のG商品使用率	基準年度値維持			基準年度+5%	
	事務用品・車両・照明器具		70%	70%以上	70%以上	70%以上	75%以上	75%以上
製品及びサービスに係る環境配慮	容器包装の適正化		過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	

※電力のCO2排出係数は株式会社エネットのメニューAの為、「0」となる。

※本社は4事業者と共用のため、電気、水、廃棄物量は目標設定しない。

※奈良工場の車両燃料、事業系一般廃棄物は僅少のため、目標設定はしない。

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

環境活動計画／実績表

期間

2019年度(2018年11月～2019年1月)

環境目標			環境活動	月別の計画／実績					
				2018年11月	2018年12月	2019年1月	集計	数値評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減(kWh/売上百万円) CO2排出係数「O」		計画	604	687	663	1954		
	基準年比	1 %減	実績	585	498	634	1717	○	
	燃料使用量(kg/売上百万円)		計画	299	350	324	973		
	基準年比	1 %減	実績	338	281	350	969	○	
	奈良工場CO2合計		計画	898	1051	973	2921		
	kg-CO2/売上百万円		実績	1016	843	1050	2909	○	
	京都本社 ガソリン使用量(l)		ガソリン	計画	0	0	0	0	
	ガソリン	排出係数 2.32		実績	784	871	763	2418	—
	軽油	排出係数 2.62	軽油	計画	0	0	0	0	
	基準年比	1 %減		実績	391	1004	97	1492	—
	京都本社CO2合計		計画	0	0	0	0		
	(kg-CO2)		実績	2847	4657	2026	9530	—	
産業廃棄物の削減(kg / 売上百万円)		計画	30	79	0	109			
基準年比	1 %減	実績	46	48	41	135	×		
食品廃棄物再生利用実施率の向上維持		計画	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%			
基準年実施率以上維持		実績	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	○		
水削減	水使用量の削減(m <sup>3</sup> /売上百万円)		計画	6.4	8.2	7.1	21.7		
	基準年比	1 %減	実績	6.5	6.5	8.8	21.8	×	

□環境活動

＜環境活動＞		評価基準	5: ほぼ 100% 取り組みができた 4: 75% 程度の取り組みができた 3: 50% 程度の取り組みができた 2: ほとんど取り組みなかった 1: 全く取り組みなかった
電力使用量の削減	不要照明の消灯の継続	4	節電活動は、完全とは言えないが、実施出来た。 また基準年度比較で、生産量及び売上げが増加し、原単位では、12%削減となった。 生産効率向上の結果となった。 今後も引き続き節電への意識を高め、高効率な製造ライン化を推進する。
	空調の温度管理の継続 暖房時: 22℃ 冷房時: 26℃	4	
	OA機器等の省エネ設定および 不使用時の電源オフ	4	
	電気使用機器の省エネの検討	4	
燃料使用量の削減	燃焼設備 空気比の調査と適正化	4	乾燥・焙煎機のバーナー炎の色管理を再度見直しをおこない、適正な燃焼で運用出来た。 原単位では、0.5%削減となった。また主力設備に関しては、ガスメーターの取付を実施。 今後は、ガス使用量の調査をおこない、削減に取り組む。
	機器の暖機及び運転時間の短縮	3	
	—		
	—		
京都本社 ガソリン使用量	公共交通機関の利用	3	以前からの取組である車両使用の抑制は継続的に活動を推進する。 利用時はエコドライブ活動も実施する。
産業廃棄物の削減	再利用化の推進	4	以前からの取組である再使用を継続的に実施し排出抑制を図る。 今後は、設備更新時も旧機器のリユース化をはかる。
	—		
	—		
食品廃棄物再生利用実施率の 向上維持	食品廃棄物再生利用実施率向上	4	食品廃棄物の飼料化・肥料化を引き続き実施する。
	—		
水使用量の削減	節水	4	原料の湿潤化で使用する水の適正化を図る。
環境活動の推進	グリーン購入の推進	継続中	事務用品は、比較的实施は出来ているが、工場資材に関しては、製品の仕様条件も考慮し、今後、グリーン購入を推進する。
	容器包装の適正化	継続中	包装資材ロス量の把握検証を実施中。今後は、検証データを基に改善を図る。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法令についての違反、訴訟等はありません。また、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

法律名	適用設備及び活動	記録その他	評価
大気汚染防止法	乾燥機	ばい煙発生施設設置届出書	○
		ばい煙測定報告書	○
水質汚濁防止法	公共用水域への排水口	特定施設設置届出書	○
		水質分析	
		50m <sup>3</sup> 以下/日	
騒音規制法	コンプレッサー・送風機・穀物 用製粉機	騒音規制法特定施設届出届	○
	敷地境界騒音レベル	騒音測定 記録	○
振動規制法	コンプレッサ	コンプレッサ仕様一覧表	○
	敷地境界線上 振動レベル	騒音測定 記録	○
自動車No x ・PM法	ダンプ（普通）	自動車検査証	○
浄化槽法	合併浄化槽	届出書	○
		浄化槽保守点検記録表	
廃棄物処理法	産業廃棄物	委託契約書	○
		許可証	
		マニフェスト	
		報告書	
食品リサイクル法	奈良工場	定期報告書の提出	○
容器包装リサイクル法	特定容器利用事業者	指定法人引き渡し	○
省エネ法	灯油、ガソリン、軽油	—	○
	その他エネルギー 使用設備	—	
	全社	定期報告書の提出	
フロン排出抑制法	7.5kW以上50kW未満のエアコン	定期点検表	○
消防法（危険物）	少量危険物貯蔵設備 980ℓ屋外タンク	少量危険物貯蔵取扱届出書	○
		甲種防火管理講習修了証	
水銀汚染防止法	蛍光灯・水銀灯の廃棄時	マニフェスト	○
悪臭防止法	焙煎設備	臭気強度	○
	敷地境界線レベル		
	工場・機械排出口		

## 口廃棄物(汚泥)の視察概要

排水処理にて発生した汚泥は三重県伊賀市にある廃棄物会社にて堆肥化され、動物園や競馬のサラブレッドが食する牧草の栽培に使用される。動物によって牧草の種類が異なり、牧草の種類や発育状況を見定めた上で全国へと出荷されている。



## 口代表者による全体の評価と見直し・指示

このご時世、環境関連の取り組みは必須となっている。

当社は以前より省エネチームとして省エネ活動に取り組んでおり実績もあり、他品目小ロットの多い生産状況の中で厳密に数値化出来るのかなど、今回のEA21登録・運用はかなり難しい目標とはなるが、少しでも活動取組が出来るよう会社としても努めていくつもりである。

また、玄米茶自体は昔からお米の食用規格から外れたものを活用されており、今も尚、米に限らず多岐にわたる食品会社より副産物（本来であれば廃棄しているもの等）を活用できないか相談を受けている。

いわば、京都グレインシステムとは、食品を無駄にしない環境にやさしい事業として成り立っているのではないかと、食品業界としてこれからも増え続ける食品廃棄物を如何に無駄にならないよう、EA21を活用しつつ提案・商品開発が出来ればよいと考えている。

今回は3ヶ月の実績に対しての評価ではあるが、次回1年後のマネジメントレビューの際には明確な運用状況の判断をしていきたい。